

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597330020		
法人名	社会福祉法人 施福会		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字宿井416番地4		
自己評価作成日	令和7年1月23日	評価結果市町受理日	令和7年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和7年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた環境で、その方に合わせたコースで散策をすることができ、季節を感じるができる。それぞれの出来る事を生かし、役割を持ち、利用者同士が助け合い協力しながら楽しみを増やし、笑顔で暮らせるように支援している。又、日々の生活の中で、食事作りや家事など、その方の出来る力を生かし、達成感を持てるように、一人一人に細やかな配慮も行っている。協力指定医との連携強化、協力のもと、定期的な往診や緊急時の対応ができる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は各ユニット毎の家族代表・地域連合自治会・民生委員・公民館長・消防署出張所長・町介護保険係・地域包括支援センター職員等、多様な参加者がほぼ毎回参加し、原因・対策を踏まえた事故報告等、運営状況に関する活発な意見交換を通して地域密着型サービスの向上に繋がっている。感染症等の制約はあるが、できるだけ外部研修の機会を設け、今年度は薬剤管理と認知症ケアに参加する等、人材育成に努めている。利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。塗り絵・味付け・朝刊の天風録の書写・電子ピアノで歌唱指導・腰痛でアコーディオンからハーモニカに替えて演奏等、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、事務所内へ掲示している。又、月1回のミーティングで理念を唱和し、共有、実践に繋げている。	法人理念を事業所理念とし、その理念のもとに事業所「職員の心得」を定めケア実践上の道標として掲示して毎月の職員会議で唱和し周知に努めている。接遇等の法人研修にて理念の定着を図り、ケア会議等で職員の対応や利用者の行動を振り返る事で理念を検証し気づきを促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	未だ、コロナ感染などの声が聞かれる為、地域との付き合い(行事の参加等)も困難状況で実践できていない。日常的な交流は出来ていないが、高校からの収穫した野菜を貰う等の交流は持っている。	感染症により地域交流に制約はあるが、利用者は初詣・どんど焼き等の季節の外出行事や家族と受診等で外出している。また家族の面会、地域住民の運営推進会議参加等、地域との相互交流や地元の高校から収穫野菜の差し入れや介護実習生の受け入れ等、交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護をされているご家族の方より、施設入所についての相談などがある際は随時対応している。又、高校生の介護実習を受け入れ、認知症の方への支援方法を教えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を元に次のステップに生かし、日々向上できるようにしている。	自己評価は管理者が職員に評価の意義を説明し、職員が自己評価したものを管理者が集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し外部評価結果に基づいた目標に対して事業所として達成すべく具体的な改善策(外部研修の促進や家族要望の集約等)に全職員で取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議実施。状況報告等をし、話し合い、そこでの有意義で貴重な意見を反映し、サービス向上に活かしている。	会議は隔月開催の対面会議で各ユニット毎の家族・地域連合自治会・民生委員・公民館長・消防署出張所長・町介護保険係・地域包括支援センター職員等がほぼ毎回参加し、活動・事故報告や質疑応答等を行っている。消防署出張所長から避難訓練や救急車要請につき助言を得た経緯がある。	多様な地域住民の高い参加率や運営状況に関する活発な意見交換や原因・対策を踏まえた事故報告等の工夫もあるが、家族の参加が少なく、事業所運営に関する情報共有が少ない。今後は参加できない家族等との情報共有・意見交換の仕組み作りを通して更なる深化を期待したい。

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議にて、事業所の状況を報告し理解を深め合っている。又、日頃から何かあれば電話や町の窓口で直接出向いて相談等をしている。	運営推進会議には町介護保険係・地域包括支援センター職員がほぼ毎回参加している。会議では事故報告に関し再発防止策、避難訓練等の意見交換を通して、地域密着型サービスの向上に繋げている。町担当者とは日頃から相談・報告を行い、運営推進会議の開催報告書は郵送している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修をミーティングで行い拘束しないケアをしっかりと話し合っている。施錠は利用者の安全が第一で、安全が確保できない場合は家族の了承を経て、センサーマットや玄関施錠をおこなっている。	年4回の身体拘束適正化委員会や年2回の研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対しては職員間で声掛けしたり、状況に即した柔軟な対応を行い、拘束廃止に向けた工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で虐待防止について勉強し又、話し合いやお互いに注意しあえるようにし、未然に防止できるよう努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については内部研修にて学んでいるが、現在は活用されている方はいない。必要があれば支援を行えるようにしたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に対し、改定時等に説明、合意を得るようにしている。契約後でも疑問があれば、答えるようしている。		

自己	外部	項目（1号館）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談、苦情の受付体制については家族へ説明している。家族の面会時や電話連絡の際には、日常の様子などを話して関わりを持ち、ちょっとした相談でも聞けるようしている。	家族とは面会時・介護計画更新時・電話連絡時・メール・LINE・運営推進会議等で管理者を中心に意見を把握し、職員は申し送り・連絡ノート等で情報共有をしている。家族から面会機会の拡大の要望があり、感染状況に応じてガラス越しから玄関口で距離を置いて実施した経緯がある。	運営推進会議に家族代表が参加したり、玄関での面会や日頃の電話連絡等で家族の要望を把握する機会はあるが、感染症により意見反映が十分とは言えない。前回の目標達成計画で策定したアンケート等の活用により、感染症においても意見反映が機能する仕組み作りを期待したい。
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで、提案や話し合いをし、皆で共有し反映している。又、随時意見や提案を聞き実行できるよう努力している。	事業所は申し送り・毎月のユニット会議・各種委員会・随時の管理者との個別面談等で職員から意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制をとっている。職員の提案により、拘縮のためシャワー浴対応の利用者に芯から温まっておうと浴槽対応とした例がある。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間内に帰れるように、流れをつくっている事や職員同士で連携をとっている。行事の担当や個別対応などをし、利用者の新たな一面を知る事で達成感を得られるようしている。又、働きやすいよう、希望休暇や希望時間を聞き出来る範囲で努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は希望があれば業務の一環として研修へ行けるようにしていたが、人員体制が整わない事や、コロナやインフルが流行り、外部研修には参加できていない。その分、ミーティングで内部研修を行い、個々の質の向上に努めている。	感染症等の制約はあるが、職員各自の力量に応じて、できるだけ外部研修の機会を設け、今年度は薬剤管理と認知症ケアの2件に参加した。内部研修は年間計画を立て、毎月職員会議にて管理者等が講師となり、実施している。新入職員にはOJT(職場内訓練)による支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しているが、未だ近隣において、コロナ等の感染が聞かれる為、同業者との交流の機会を持つことはなかった。		

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族からの情報を元にしっかりコミュニケーションを取り、不安や要望を聞きながらアセスメントを実施している。又、気持ちや思いを傾聴し、心の距離を縮めることで信頼関係を作るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることを聞きつつ、本人が生活する中で家族と話し合いをして関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり聞く事で、何が必要なのか考え、本人や家族と相談しながら、必要とするサービスを見つけている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で対等の立場で接すると共に、尊敬の念を抱いている。又、料理（一緒にしつつ）などの本人ができる事や得意な事を教えてもらう姿勢を持つよう心掛けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に過ごす時間や思いやる気持ちを大切にしながら、コミュニケーションをとっている。本人の困りごとや希望がある時は、必要があれば家族にも協力してもらっている。又、面会の際は日々の状況を伝えている。		

自己	外部	項目（1号館）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、個別外出で馴染みの場所や美容院などに行くようにはしていたが、コロナ禍や、ADLの低下にて外出できていない。窓越し面会だが近所の方が面会に来られたり、手紙が届いたりとの交流はある。	訪問しやすい事業所を重視し、現在は感染状況に応じてガラス越しや玄関を開放して短時間の直接面会が可能である。初詣・どんど焼き等、季節の外出行事や電話・手紙のやり取り、家族の協力で受診等の外出を通して馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、デイルームの座席を考えたり、廊下やデイルームの一部に椅子やソファを置き、利用者同士がゆっくり話せて過ごせるスペースは作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはこれまでの関係性を大切に、配慮のある対応を心かけている。退所後も、ご家族より相談などがある際には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人をしっかりと観察し、会話や行動の中で、何を必要としているかを見極め、ケース会議で検討し、職員間で共有している。	職員はゆっくり話す中で思いを汲み取り、ケース会議等で共有している。馴染みのある事が継続できる様、趣味の電子ピアノや腰痛でアコーディオンからハーモニカに替えて演奏できた例がある。てんかん発作の症状発現が捉えにくい利用者に対し小さな変化を見逃さない対応に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活習慣、生活環境などについて、家族からの聴き取りやサービス事業者からの情報により、情報収集をきちんと行っている。		

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に寄り添い、しっかりと関わりながら見守り、観察し、身体・精神状態、できること、できないこと、1日の生活リズム等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の想いや家族の意向、主治医や職員の意見を参考にして、ケース会議で意見交換することにより、その人に合った計画を立てている。	介護計画の実施状況を居室担当者が3カ月毎に確認、計画作成担当者が集約し、3カ月を基本に計画を見直している。立案の視点として、機能維持や利用者の強みを重視し、電子ピアノ・ハーモニカ等、馴染みのある事が継続できる支援や家族の意向を配慮したチーム支援に努めている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで、日々の様子や気づきを共有し、それに基づいたケアを職員間で連携している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間の情報を密にして、ニーズの変化、状態の変化に対応できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はパンが好きな方には移動販売を利用し、好みのパンを購入したりスーパーへの買い物や馴染みの美容院等への外出などしていたが、未だ、コロナ禍により支援ができない状況である。		

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本家族が行っているが、遠方の家族や、緊急時には看護師又は職員が対応している。状況が変わった利用者や家族の希望があれば、職員も受診に付き添い、家族や主治医とも情報を共有できるようにしている。	利用開始前のかかりつけ医継続も可能で、半数の利用者は協力医をかかりつけ医とし、内科協力医から月1回の訪問診療、協力歯科医は適宜の往診、他科受診は主に家族が行っている。また常勤専従の看護師の配置や協力医と時間外も連絡可能であり、適切な医療を受けられる体制を整えている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で気づいたことを看護師へ相談したり記録に残している。家族の医療的な希望や疑問も看護師へ伝え、出来るだけ看護師本人から家族へ説明してもらったり受診に付き添ったりして、医療面でも安心できるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供だけでなく、入院時の状態、経過を把握して、早期退院できる様に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期について、本人やご家族の意向を伺い、出来る事を説明している。重度化する前から利用者の状態について、ご家族とも話をし、重度化した際に、他施設や病院転院も含めて支援できる様に取り組んでいる。	利用契約時に基本的な方針を説明し、了承を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には早い段階から家族・医師等で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。かかりつけ医との医療連携をもとに介護施設・医療機関等への移行を含め、適切な支援を行う方針である。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	内部研修で緊急時、事故発生時の対応を学んでいる。ヒヤリハット報告の反省を通じて、事故を未然に防げる様な関りや取り組みをしている。	事故の再発防止に繋げるため、対応職員による事故報告書等の作成・回覧・法人の介護事故防止検討委員会での検証を通して職員は情報共有し、事故内容も運営推進会議で公表、参加委員と意見交換をしている。内部研修や消防署立ち合いのもと併設施設と合同で心肺蘇生訓練を実施している。	

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練(日中、夜間想定)年に各1回ずつ、災害時避難訓練を年1回行っている。非常時には同一法人内で協力体制ができており、併設の特養は地域の避難場所となっている。非常時に備え、常に水や非常食の備蓄をしている。	防火管理者が立ち合い、併設施設と合同で年2回火災避難訓練(夜間想定を含む)と年1回災害避難訓練を利用者も参加し行っている。夜間は併設施設夜勤者と事務所宿直者との協力体制がある。BCP(業務継続計画)を策定し、一定の備蓄や併設施設が地域の緊急避難場所となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう配慮し、その人にあった言葉かけを心掛けている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制がある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促し、職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。事業所便り等、玄関の掲示物に利用者の写真を載せない等、個人情報に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを口に出せるような雰囲気、環境を作り、表情や発言を見ながら、自分で選択できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、本人のペースに合わせ、臨機応変に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの習慣を大事にし、それが続けられるようしている。自分で好きな衣類を選んでもらったり、家族へ相談し、化粧道具がなくならないように持って来てもらっている。難しい方は、衣類の量を減らしたり、化粧品や櫛を目立つところに置いたりしている。		

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に何ができるかを把握し、野菜を切ったり、味付け、盛り付け、玉ねぎの皮むきやお茶の袋づめ等ちょっとしたことも手伝ってもらい、達成感が持てるようにしている。片付けも、出来る範囲の事をしている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し、職員による三食手作りである。利用者も皮むき・片付け等、できる役割を担っている。きんとん・恵方巻作りや菜園野菜の活用や運動会で弁当注文等、楽しみな工夫もある。クッション等で食事姿勢を整え、個別テーブルの導入等、自立支援に留意している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方には、好みのものを提供している。(ご飯が苦手な方にはパンを提供したり、ふりかけをつけたりと工夫している)。又、特に少ない方には高カロリージュースやゼリー等も提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている方は、継続できるよう環境を整え、出来ない方は気持ちに配慮しつつ声掛けや、口腔ケアセットを用意したり、側に付き添い、歯磨きを手伝うなどしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表への記録をすることで、パターンを把握し、失敗を防ぎ、自然にトイレへ行けるよう工夫している。難しい方は、言葉に配慮しながら声掛けをしている。場所に迷う方には掲示したり、口腔ケアや手洗いの流れで行けるようにしている。	排泄表で排泄パターンを把握、トイレ誘導を基本とするも布パンツ対応が約4割で、声掛けをしなくともトイレに行く利用者が多い。可動式手すりや座位姿勢を支え、夜間排泄時の転倒防止の為、居室にポータブルトイレやセンサーマットを設置する等、状態に合わせた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の内容や、日常の活動状態の把握をし、水分をとったり、運動(午前午後に体操)をしたりしている。定期に便秘薬(緩下剤)の処方、服薬をされている方もいる。時には看護師に相談し、座薬を使用する事もある。		

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴時間の確保は困難ではある。入浴時間は午後からとなっているが、その中で本人と話し入浴時間をずらしたり、入浴の仕方を変えたり温度調整が出来るようしている。	週2回の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、柔軟に対応している。入浴は据え置き式浴槽での個人浴である。利用者の体の負担を考慮しシャワー浴や足浴で対応したり、好みの入浴剤や冬至の柚子湯等で寛いでもらっている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、休息や休む際には、光や音楽など落ち着いたものにするなどしている。又、昼食後お昼寝の習慣になっている方もおり、環境に配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のロッカーに、薬の情報を貼り、別にもファイリングもしており、職員がすぐに見られる様にしてある。服薬は、名前、日時を確認し、手に出してあげきちんと服薬したかを傍にいて確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握し、調理や折り紙、塗り絵など個々に合った趣味をしてもらったり、時にはこちらから提案し、皆で楽しんでできるレク活動もしている。	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。塗り絵・味付け・天風録の書写・電子ピアノで歌唱指導・ハーモニカ演奏等、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には本人の希望を聞きながら散歩や外気浴はしている。ドライブ兼花の散策を春にしているが、人員不足の為外出支援は思うように行えていない。	感染症防止のため地域交流に制約はあるが、利用者の希望で散歩がてら敷地内で菜園見物をしたり、家族と受診等で外出している。又、職員配置を工夫しながら初詣で三社参り・どんど焼き等の季節のドライブ外出行事で普段は行けないような所へ出かけ「非日常」を楽しむこともある。	

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知力が低下しほとんどの方が自分で支払いできなく、お金を所持していない状況である。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることは難しくなっているが、年賀状などを書けるように支援している。家族より何か届いた場合は、お礼の電話ができる様にしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を飾ったりしている。利用者が過ごしやすいよう、音楽や照明をその時々に変えたり、空調の調整や換気を行い、快適な室温管理を行っている。	菜園の花・野菜、季節行事の飾り付けや利用者と作る作品で季節の移ろいを感じられる様配慮している。フロアは利用者が洗濯物畳み、調理を手伝う等、生活感のある空間である。利用者の好みにより窓際の席を、又、車いす利用者には出入りし易い位置に席を設ける等の配慮をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごせるスペースがあったり、椅子やソファを所々に置き、休憩したり自由に座ってもらえる場所を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものだけでなく、家族の写真や、本人の手作りのものを置いて、自分の部屋だと安心できるようにしている。	居室にはベッド等を設え、必要最小限の家具等、使い慣れた物やラジオ等、好みの物を持ち込み過ごし易くしている。又、転倒防止にセンサーマットを設置している。夜間に廊下の照明が居室に入らない様、扉の小窓にのれんで遮光等の配慮をしている。	

自己	外部	項 目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせた環境整備を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己 外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、見える所に掲示している。又、月1回のミーティングで理念を唱和、共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今だ、コロナ感染などの声が聞かれる為、地域との付き合い(行事の参加等)も困難状況で実践できていない。1月どんと焼き見物(城南の小学校)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護をされているご家族の方より、施設入所についての相談などがある際は随時対応している。(入所申込は関係なく)		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を活かして、改善に向けての努力はしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議実施。状況報告等をし、話し合い、そこでの有意義で貴重な意見を反映し、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議にて、事業所の状況を報告し理解を深め合っている。又、日頃から何かあれば電話や町の窓口へ直接出向いて相談等をしている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ただし、利用者の安全が確保できない場合は、ご家族の了承を得て、玄関の施錠を行っている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングで虐待防止について繰り返し学んでいる。又、話し合いや職員間で注意し合えるようにし防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については内部研修にて学んでいる。利用者1名の方、成年後見制度を利用している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に説明し理解・合意を得るようにしている。契約後においても、不明な点や疑問があれば、丁寧に説明・返答している。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談、苦情の受付体制についてはご家族へ説明している。又、ご家族の面会時や電話連絡の際に、日常の様子などをしっかり話して関わりを持ち、どんな相談でも聴ける様な体制にしている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで話し合いをし、職員間で共有し反映している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働就業時間内に帰れるように、業務の流れを作っている。又、職員一人一人の得意としている事を業務に活かせる環境となっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで内部研修にて学んで貰っている。外部研修については、出来るだけ受講を勧めたいところだが、人員体制が整わず、年に1回出来ただけである。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今だ近隣において、コロナ等の感染が聞かれる為、同業者との交流の機会を持つことはなかった。		

自己	外部	項 目（ 2号館 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人に意見を聞き、不安や要望に等に耳を傾けながら、アセスメントを行っている。また、気持ちや思いに寄り添い、受容し安心感を持っていただき、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、話し合い、相談しながら関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと話を傾聴し、何を必要としているのかを考え、本人、ご家族と相談しながら、必要とするサービスを見つけている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、敬意を表し、生活の中での色々な場面において、本人ができることはして貰うと共に、私達も様々な事で知恵を借り、学ばせてもらうことが多い。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	思いやり気持ちを大切にしながら、優しく敬意を持って関わっている。又、本人の希望・要望がある時は、必要に応じて、ご家族にも相談し協力してもらっている。		

自己	外部	項目（ 2号館 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し面会にて馴染みの人と出会える機会はあるが、今だ、コロナ等の感染症の状況から、自由に面会や外出ができない為、支援に難しさを感じている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性等を考慮し、デイルームの席に配慮している。様々な場面において利用者同士の関係性に配慮し、お互いに思いやりを持って過ごせる様に支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはこれまでの関係性を大切にしてい、配慮のある対応を心がけている。退所後も、ご家族より相談などがある際には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にしっかりと向き合い、観察し、コミュニケーション(会話)や行動の中で、何を必要としているかを見極め、ケース会議で検討し、職員間で共有している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活習慣、生活環境などについて、ご家族からの聴き取り、サービス事業者からの情報により、情報収集をしっかりと行っている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に寄り添い、しっかりと関わりながらそっと見守り、観察し、身体・精神状態や、できること、できないこと、1日の生活リズム等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思い、気持ちやご家族の意向を確認し、主治医の意見を伺い、ケース会議にて協議することにより、その人に合わせた介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りにて、日々の様子や情報を共有し、それに基づいたケアを職員間で連携して行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に合わせて、その時々ニーズに対応できるように努力している。又、サービスの多機能化への取り組みについては、これからの課題である。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今だ、コロナ等の感染症の状況から、以前には行っていた支援ができない状況が続いている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族が対応しているが、緊急時には職員が対応している。状況が変わった利用者やご家族の希望がある場合は、職員も受診に付き添い、ご家族や主治医とも情報を共有できる様にしている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気付いたことを看護師へ相談している。ご家族の医療的な希望や疑問も看護師へ伝え、出来るだけ看護師本人から答えてもらうことにより、医療面でも安心できる様にしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供だけでなく、入院時の状態、経過を把握して、早期退院できる様に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期について、本人やご家族の意向を伺い、出来る事を説明している。重度化する前から利用者の状態について、ご家族とも話し、重度化した際に、他施設や病院転院も含めて支援できる様に取り組んでいる。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	内部研修で緊急時、事故発生時の対応を学んでいる。ヒヤリハット報告の反省を通じて、事故を未然に防げる様な関りや取り組みをしている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練(日中、夜間想定)年に各1回ずつ、災害時避難訓練を年1回行っている。非常時には同一法人内で協力体制ができており、併設の特養は地域の避難場所となっている。非常時に備え、常に水や非常食の備蓄をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや気持ちに配慮しつつ、その人に合わせた言葉かけや対応をしている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを口に出せるような環境を作り、表情や発言を見ながら、自分で選択できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、本人のペースに合わせ、臨機応変に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの習慣を大切に、それが続けられるようにしている。衣類を選んでもらったり、化粧品準備、スキンケアの介助などを行っている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時節の食事(恵方巻、おはぎなど)を楽しんでもらえる様に協力してもらっている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方には、好みのものを提供するなど、できる工夫はしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として継続できる様に環境を整え、声掛け、見守り、出来ない所があれば介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表へ記録をすることで、個々のパターンを把握、理解し、失敗を防ぎ、自然にトイレへ行けるよう工夫している。難しい方は、言葉に注意しつつ声掛け、誘導をしている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者全員、定期に便秘薬(緩下剤)の処方、服薬をされている。水分摂取をし、運動をしてもらっている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた時間の確保は困難ではある。希望の温度調整や入浴時間には対応している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握、理解し、光、温度、寝具等の調整をし、環境整備を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイリングしており、職員がすぐに見られる様にしている。服薬は、名前、日時の確認をし、手渡しで行い、確実に服薬したかを確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握、理解し、個々に合わせた趣味のものをしてもらったり、皆で楽しむことができるレク活動を行っている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は出来ている。年に数回、季節感が味わえる場所への外出支援を行っている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布(お金)を持っておられる方がいない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、ご家族へ電話をしたりしている。携帯電話を持っておられる方(2名)はご家族へ電話をかけたり、かかったりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物などを飾り、しつらえに工夫をしている。環境整備に努めている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを数カ所に設置し、一人や少人数で座って過ごせる場所を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前にご家族、本人にも聞いて、自分の部屋だと安心して過ごせる様に、馴染みのものや、家族写真、本人の手作りのものなどを置いたり、飾ったりしている。		

自己	外部	項 目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせた環境整備を行っている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホームみずき

作成日

令和7年3月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点，課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	11	家族との関係は良好なものとなっており、電話や面会時等状況を伝えているが、定期的に意見や要望について表せる機会が確保されていない。	アンケートを実施して家族が意見、要望を表せる機会を確保する。	年に2、3回、アンケートを実施して、意見、要望等を書いて貰い、それを日頃のケアの実践に活かしていく。	12ヶ月
2	5	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しており、1、2号館家族代表が1名ずつ参加しているが、参加していない家族へ情報共有が出来ていない。	運営推進会議に参加していない家族にも情報共有できるようにする。	運営推進会議後に、毎月家族へ送る請求書と共に資料を送付し、情報共有、又、意見交換していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。